

# コメントライナー

第6891号

2020年1月17日(金)

## オーストラリアが燃えている！

防災・危機管理アドバイザー 山村 武彦

### ◆九州と四国を合わせた面積が焼失

昨年9月ごろ発生した豪州の大規模山火事(現地ではBush Fireと呼ぶ)は、今年に入ってもなお約300カ所で燃えている。これほど延焼し続けるのは、数年来の干ばつ、春からの少雨、熱波、強風、遠方飛び火などに消火が追い付かないため。気候変動の影響か、豪州の山火事は年々激甚化している。これまでに27人が犠牲となり、500万ha以上(九州と四国を合わせた面積)の森林と約1,400棟の住宅が焼失。コアラ8000頭を含む約4億8000万匹の野生の哺乳類、鳥類、爬虫類が死んだと推定されている。痛ましい限りである。

2月までは真夏、まとまった雨が降らない限り鎮火はすぐに期待できず、延焼はまだ数カ月続くとみられる。これほどの広域山火事であれば、一国の消防力だけで手に負えるものではなく、アメリカ、ニュージーランド、カナダ、シンガポールから緊急支援隊が駆けつけているが、さらなる国際支援が求められている。

### ◆3・11緊急援助隊の面々が

私は12月21日から26日まで、被害の多いニューサウスウェールズ州(NSW州)の現地を回った。シドニー到着後、真っ先に訪ねたのはNSW州消防・救急本部でアシスタントコミッショナーの要職にあるロバート・マクニール氏。彼は2011年3月、豪州緊急援助隊の隊長として東日本大震災直後に駆け付け、宮城県南三陸町で捜索・救助活動を行った人である。

あの時、福島第一原発事故の影響で各国援助隊は次々離脱し帰国したが、豪州隊は予定通り余震と雪の降る中活動を続けた。生存者救出はできなかったものの、行方不明だった4人のご遺体を発見してくれた。派遣された隊員72名はすべて今、山火事と闘っているNSW州の消防隊員たちである。当時の活動に対する感謝の気持ちを伝えると共に、今回消火活動中に殉職を遂げた若い2人の隊員へのお悔やみとお見舞いを申し上げた。彼も涙を浮かべながら強く私の手を握り返した。

### ◆前代未聞の危機に直面

東日本大震災時、豪州政府は軍が保有する4機の大型輸送機C17のうち、3機を日本支援に投入。豪州隊を輸送した1機は、その後も10日間にわたり自衛隊の要員・物資等の輸送支援を担った。さらに残りの2機で福島第一原発の冷却に用いる特殊ポンプなどを輸送している。これは豪州のトモダチ作戦である。1カ月後の4月23日、ギラード豪州首相は外国首脳として初めて被災地を訪問。その時同行したのがマクニール隊長だった。ギラード首相は南三陸町の避難所で支援物資と共に子どもたちにコアラとカンガルーのぬいぐるみをプレゼント。子どもたちからお礼として折り鶴が贈られた。

会見で首相は「日本人は不屈で勇敢、この困難もきっと乗り越えられる。私たちは皆さんと共にある」と激励してくれた。その準同盟国が今、未曾有の大規模山火事に見舞われている。ベレジクリアンNSW州知事は「経験したことのない未知の領域、前代未聞の危機に直面」と語り、豪州赤十字社はHPで災害救助・復旧基金への寄付を呼びかけている。

(やまむら・たけひこ)

◆監修◆ 内外情勢調査会

◆委託編集◆ 時事総合研究所

〒104-8178 東京都中央区銀座5-15-8 TEL: 03-6800-1111(代表)

この記事に関する問い合わせは、時事総研(03-3546-2384)まで

本稿の一切の情報について、無断転載・複写をお断りします。©時事通信社 2003